

Sunshine 第13回 Lessons

Lesson 13-1 : いる・ある (肯定文)

今回学ぶのは「私の授業には30人の生徒がいる」「古いカメラがテーブルの上にある」といった「いる・ある」を表す文についてです。基本の形は以下の通りです。

There + be 動詞 + 。

【注意点】

1. ここで登場する **there** は「そこ・あそこ」という意味ではない。
2. **be** 動詞の使い分けは「単数 / 不可算名詞」か「複数」で使い分ける。

「単数/不可算 = **is**」 「複数 = **are**」

- <例> There is an old camera on the table. (古いカメラがテーブルの上にあります)
- There are 30 students in my class. (私の授業には、30名の生徒がいます)
- There are some people in the library. (図書館の中に、何名かの人がいます)

【作り方】

ステップ1: 「ある・いる」の部分のをぞいて「名詞+場所」の文を作る。

ステップ2: 「単数・複数・不可算」を確認し、**there + be** 動詞 の形を文頭に足す。

<例1: 古いカメラがテーブルの上にあります>

ステップ1. 「ある・いる」の部分のをぞいて「名詞+場所」の文を作る。

→ 「古いカメラ + テーブルの上にある」

an old camera on the table

ステップ2. 「単数・複数・不可算」を確認し、**there + be** 動詞 の形を文頭に足す。

→ 「古いカメラがある」 = 「単数」

There is an old camera on the table.

<例2: 私の授業には、30名の生徒がいます>

ステップ1. 「ある・いる」の部分のをぞいて「名詞+場所」の文を作る。

→ 「30名の生徒 + 私の授業に」

30 students in my class

ステップ2. 「単数・複数・不可算」を確認し、**there + be 動詞** の形を文頭に足す。

→ 「30名の生徒」 = 「複数」

There are 30 students in my class.

【ポイント】

1. A and B と複数がある場合は、There are/were A and B の形

例えば「1匹の犬と1匹の猫」がいると言いたい場合、基本的に **There are ~** の形が使われます。そのため、**There are a dog and a cat ~** となります。しかし、会話などの「くだけた場」では、**There is ~** が用いられることもあります。

<例> There are a dog and a cat in the room. (部屋に1匹の犬と1匹の猫がいます)

2. 主にスピーキングの際に使われる There is の短縮形 = There's

短縮形は、主にスピーキングで使われる(そのため、ライティングでは基本的に省略形は使わない)のですが **There is** は、**There's** と短縮されることが多いです。しかし、**There are** を **There're** と短縮させることはあまりありません。その理由は定かではないのですが「発音しづらいから」という意見は聞いたことがあります。

<例> There is (There's) some food on the table. (テーブルの上にくらか食べ物があります)

Lesson 13-2 : **There + be 動詞** の特徴

今回学ぶ「○○が△△にある(例: **There is** ○○ on △△.)」という表現をしっかりと理解するためのポイントは、2つあります。

- (1) ○○の部分には不特定の名詞が入る
- (2) △△の部分には特定されている名詞 (**the** + 名詞 / 所有格 + 名詞など) が入る

《説明 1: 「○○の部分には不特定の名詞が入る」について》

今回の練習で登場する **There + be** 動詞 は、基本的に

新しい物や人を紹介する時に使われる表現

となります。そのため **There is a ~** . や **There are some ~** . といった、名詞を特定しない形がよく使われます。例えば「一人の生徒がいる (**There is a student.**)」「何本かペンがある (**There are some pens.**)」といった形です。違う言葉で言えば、この **There + be 動詞** の形では、

基本的に「固有名詞」「**the** や所有格がつく名詞」が「ある」という言い方はしない

ということです。では、固有名詞、**the** や所有格がつく名詞が「ある」と言いたい場合はどうする

のか？それは、

There + be 動詞 の形ではなく、
その**固有名詞**、**the** や**所有格**がつく**名詞**を**主語**にして文を作る。

<例> Taro is in my room. = ○ There is Taro in my room. = ×

(タロウは私の部屋にいます)

My school is in Osaka. = ○ There is my school in Osaka. = ×

(私の学校は大阪にあります)

《説明 2: 「△△の部分には特定されている名詞 (the + 名詞など) が入る」について》

そして「○○が△△にある (例: There is ○○ on △△.)」という表現の△△の部分には、特定されている名詞 (**the + 名詞 / 所有格 + 名詞 / 固有名詞**など) が入ります。例えば、あなたとあなたの友人の前にテーブルがあり、そのテーブル上にペンがあるとしましょう。そこで、あなたが「ペンがテーブルの上にあります」と英語で言う場合、ペンは今紹介されたものなので **a pen** となるのですが、テーブルに関しては「自分たちの前にあるテーブル」と限定されているので、**the table** となります。そのため、

There is a pen on the table.

という文になります。同様に、△△には、場所を特定している**固有名詞**や**所有格**のついた**名詞**も置くことができます。

<例> There is a big poster on the wall. = ○ (on a wall = ×)

(壁に大きなポスターがあります)

《「どの壁」について話しているか限定されているため **the wall** になる》

There are many good restaurants in Utsunomiya. = ○ (in a city = ×)

(たくさんの良いレストランが宇都宮にはあります)

《「宇都宮」と限定されている》

【ポイント！】

There + be 動詞 + ～. の代わりに使える have

「いる・ある」は **There + be 動詞 + ～.** の形以外でも **have** で表すことができます。例えば「私たちが住んでいる市には、3つの高校がある」という文。この状況を説明する場合、英語では、以下の3つの表現が可能です。

(1) 「私たちの市には3つの高校があります」

→ There are three high schools in our city.

(2) 「私たちの市は3つの高校を持っています」

→ Our city has three high schools.

(3) 「私たちは3つの高校を持っています」

→ We have three high schools.


「私たちの市」を「人」のように扱うことや、「私たちの市 = そこに住んでいる人たち = 私たち」と考えることもできるのが英語の特徴です。

Lesson 13-3 : 様々なフレーズ⑬

1. over there = あそこに / あっちの方に

<例> Let's go over there. <あそこに行きましょう>

〔補足説明〕

over は「～の上に (の・を) / ～をおおって / ～を超えて」という意味。
「there よりも距離があるあそこ」と言いたい時に使われるフレーズ。また、come here (ここに来て) というフレーズも、少し距離のあるところにいる人に対しては、come over here ということができる。

<例> Can you come over here? (ここに来てくれる)

2. something ○○ (形容詞) = 何か○○のもの / ○○な何か

<例> I want to drink something cold. <私は冷たい何かを飲みたいです>

〔補足説明〕

something は「何か / 何かあるもの」という意味。something / anything といった some ~ / any ~ の単語に形容詞が付く場合は、something / anything の後に足されるので注意。

3. always = いつも (副詞)

<例> She is always busy. <彼女はいつも忙しいです>

〔補足説明〕

always は頻度を表す副詞。always の足し方は (usually / sometimes などの他の頻度を表す副詞同様) be 動詞の肯定文 (There is/are の文も含む) では be 動詞の後、一般動詞の肯定文では一般動詞の前となる。 また can といった助動詞の肯定文の場合は、助動詞の後に足される。

<例> There are always many people at the park. <公園にはいつもたくさんの方がいます>

He always studies in the library. <彼はいつも図書館で勉強します>

I can always help you. <私はいつでもあなたを助けることができます>

4. also ~ = ~も (副詞)

<例> She can play the piano. She can also play the guitar.

<彼女はピアノが弾けます。彼女はギターも弾けます>

〔補足説明〕

also は、文章の最後に足される (,) too とほとんど同じ意味で使われる。また、usually / sometimes などの頻度を表す副詞同様、足される場所が決まっているので注意。be 動詞の肯定文 (There is/are の文も含む) では be 動詞の後、一般動詞の肯定文では一般動詞の前となる。また can といった助動詞の肯定文の場合は、助動詞の後に足される。

<例> She is also a soccer player. (彼女もサッカー選手です / 彼女はサッカーもできます)

I also need a black pen. (私も黒いペンが必要です / 私は黒いペンも必要です)

He can also sing well. (彼も上手に歌うことができます / 彼は上手に歌うこともできます)

5. by ○○ (車 / 自転車 などの移動に使われるもの) = ○○ (車 / 自転車 など) で

<例> We went there by car. <私たちはそこまで車で行きました>

〔補足説明〕

by は前置詞。by ○○で移動手段を表すことができる。○○には、基本的に a/an といった「冠詞」や my/your などの「所有格」はつかず、複数形にもならないので注意。

<例> We went there by a car. = × We went there by my car. = ×

We went there by cars. = ×

また「徒歩で」という場合は on foot / by foot / walk to といった表現が使われる。

<例> 私は徒歩で学校に行きます。

I go to school on foot. I go to school by foot. I walk to school.

Lesson 13-4: 様々なフレーズ⑭

1. in (the) summer = (その) 夏に

<例> We have many festivals in the summer. <私たちは夏にたくさんのお祭りがあります>

〔補足説明〕

夏だけでなく、他の季節でも使うことができる。

春 = spring 夏 = summer 秋 = fall / autumn 冬 = winter

また、限定された季節 (去年の夏、今年の春、など) でなくても、the がよく使われる。

「日本では、今は夏です」のように「○○ (場所) では、今は△△ (季節) です」という場合、It is △△ in ○○ (now). と、主語に it が使われる。

<例> It is summer in Japan (now). (日本では、今は夏です)

<Japan is summer now. = ×>

2. so ○○ = とても○○ / 非常に○○

<例> Those flowers are so beautiful. <あれらの花はとても美しいです>

〔補足説明〕

very と同じような意味で使われる。どちらかと言うと、so は、主観的で感情が入る表現なのに対し、very は客観的であまり感情が入らない表現となる。

3. How can we go (get) there? = 私たちは、どうしたらそこに行けるの（着けるの）ですか

<例> A: I know a good store. B: How can we go there?

<A: 私は良いお店を知っています。 B: 私たちは、どうしたらそこに行けるのですか>

〔補足説明〕

行きたい場所までの道のりをたずねる時によく使われる表現。“How + can の疑問文？”の形となっている。また、go の代わりに get もよく使われる（get には「手に入れる」という意味だけでなく「（～に）到着する / 着く」という意味もある）。また、there の代わりに to ○○（to the station など）、can I の代わりに do they など、様々な形で使うことができる。

<例> How do they go to the station every day?

<彼らは、毎日どうやって駅に行っているのですか>

4. far (from ~) = （～から）遠い

<例> Our school is far from the station. <私たちの学校は駅から遠いです>

〔補足説明〕

from ~ が明らかな場合は、from ~ は省略される。また、How far is ~?（～はどれだけ遠いのですか）という疑問文もよく登場する。

<例> I want to walk to the station from here. Is it far?

<私はここから駅まで歩きたいです。遠いのですか>

How far is it from our school?

<私たちの学校からは、どれくらい遠いのですか>

5. a little ○○ = 少し (の) ○○

<例> I need a little water. <私は少しの水が必要です>

【補足説明】

little は、小さいという意味もある。しかし、「少し (の)」という場合 a little と a が足されることが多い。

6. Here it is. = (ここに) あった / いた

<例> I can't find my homework. Oh, here it is. <私の宿題が見つかりません。あ、あった>

【補足説明】

似た表現で、Here you are. というものがあるが、これは「はい、どうぞ」と、何かを差し出す時に使う表現なので注意。

Lesson 13-5 : いる・ある 否定文

「いる・ある」の否定文は、基本的に「be 動詞」の部分で「be 動詞 not」の形にするだけで完成となります。

【「いる・ある」の否定文：基本の形】

There + be 動詞 + not + 。

*be 動詞と not を短縮させた形を使うことも可。

<例> There is not (isn't) a red pen on the table. <赤いペンはテーブルの上にはありません>

There are not (aren't) eight desks in the classroom. <8 台の机は教室にありません>

【作り方】

ステップ 1 : There + be 動詞 の **肯定文** を作る。

ステップ 2 : be 動詞の後に **not** を足す (be 動詞と not の短縮も可)。

<例 1 : 赤いペンはテーブルの上にはありません>

ステップ 1. There + be 動詞 の肯定文を作る。

→ 「赤いペンがテーブルの上にあります」

There is a red pen on the table.

ステップ 2. be 動詞の後に not を足す (be 動詞と not の短縮も可)。

There is not (isn't) a red pen on the table.

<例2：8台の机は教室にはありません>

ステップ1. **There + be 動詞** の肯定文を作る。

→ 「8台の机が教室にあります」

There are eight desks in the classroom.

ステップ2. **be 動詞**の後に **not** を足す (**be 動詞**と **not** の短縮も可)。

There are not (aren't) eight desks in the classroom.

【ポイント！】

「全くない」「少しもない」という場合の any

もうすでに登場している「全くない」「少しもない」という意味の any は、There is / are の否定文では、よく登場します。any を使う時の注意事項は「可算名詞の時は、be 動詞は are で複数形を用いる」「不可算名詞の時は、be 動詞は is」を使うということです。

【「全くない」「少しもない」の否定文：基本の形】

There + are not (aren't) + any + 可算名詞の複数形 + ～.

There + is not (isn't) + any + 不可算名詞 + ～.

(There + is + not + any + 単数形は、あまり使われない)

<例> There are not (aren't) any red pens on the table. (テーブルの上に赤いペンは全くありません)

There is not (isn't) any milk in the refrigerator. (冷蔵庫に牛乳は全くありませんでした)